

1 青森県の推計人口（令和 4 年 7 月 1 日現在） 1

県 人 口 1, 207, 126 人（対前月 849 人減少）	
自然動態	946 人減少（出生者数 476 人、 死亡者数 1, 422 人）
社会動態	97 人増加（転入者数 1, 374 人、 転出者数 1, 277 人）

2 本県の経済動向（令和 4 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症や物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 4 年 7 月期）をみると、前期から上昇し、景気の横ばいを示す 50 を 2 期ぶりに上回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和 4 年 5 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 27 年＝100）は、季節調整済指数が 96.4 で、前月比 8.9%の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 95.5 で、前年同月比 4.5%の低下となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和 4 年 5 月の**定期給与**は 224, 452 円で前年同月比 2.0%増となった。 3
 総実労働時間は 140.1 時間で前年同月比 0.7%減、**所定外労働時間**は 8.5 時間で前年同月比 3.3%増となった。
 ・令和 4 年 6 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 1.17 倍となり、15 カ月連続で 1 倍を上回った。
- (2-3) 物 価 令和 4 年 6 月の**青森県消費者物価指数**（令和 2 年＝100）は、総合指数が 103.3 となり、前月比 0.4%の上昇、前年同月比 3.5%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 100.5 となり、前月比 0.5%の上昇、前年同月比 1.5%の上昇となった。 5
- (2-4) 個人消費 ・令和 4 年 6 月の**百貨店・スーパー販売額**は、146 億円で全店舗ベースが前年同月比 1.5%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 0.7%減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。 6
 ・令和 4 年 6 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 2, 787 台で、前年同月比 10.4%減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
 ・令和 4 年 6 月の主な観光施設の**観光入込客数**は、57 万 3 千人で前年同月比 40.9%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、19 万人で前年同月比 64.6%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-5) 建 設 ・令和 4 年 6 月の**新設住宅着工戸数**は 542 戸で、前年同月比 5.9%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。 8
 ・令和 4 年 6 月の**公共工事請負金額**は 208 億 7, 400 万円で前年同月比 35.7%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 令和 4 年 6 月の**企業倒産**は、件数は 5 件で前年同月比 66.7%増となった。 8
 負債総額は 5 億 5, 400 万円で前年同月比 264.5%増となった。

（3）景気動向指数 C I（令和 4 年 5 月分） 9

先行指数	118.2（前月を 7.6 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した）
一致指数	79.1（前月を 2.5 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した）
遅行指数	95.6（前月を 4.1 ポイント下回り、3 カ月連続で下降した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 4 年 7 月期） 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I	… 51.0（前期比 12.5 ポイント上昇、2 期ぶりに 50 を上回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I	… 47.0（現状判断 D I と比べ 4.0 ポイント低下）

1 青森県の推計人口(令和4年7月1日現在)

【概 況】

現在の本県推計人口は、1, 207, 126人で、対前月849人の減少となった。

○自然動態

出生者数が476人、死亡者数が1, 422人で、946人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1, 374人、転出者数が1, 277人で、97人の増加となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭45. 10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50. 10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55. 10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60. 10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2. 10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7. 10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12. 10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17. 10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22. 10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27. 10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令 2. 10. 1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
3. 7. 1	1,223,717	576,436	647,281	-0.087%	-1,064	-900	546	1,446	-164	1,015	1,179
3. 8. 1	1,222,949	576,212	646,737	-0.063%	-768	-910	554	1,464	142	1,460	1,318
3. 9. 1	1,222,051	575,775	646,276	-0.073%	-898	-963	621	1,584	65	1,322	1,257
3. 10. 1	1,221,305	575,531	645,774	-0.061%	-746	-958	564	1,522	212	1,423	1,211
3. 11. 1	1,220,315	575,169	645,146	-0.081%	-990	-958	550	1,508	-32	1,167	1,199
3. 12. 1	1,219,219	574,658	644,561	-0.090%	-1,096	-1,066	515	1,581	-30	1,038	1,068
4. 1. 1	1,217,988	574,116	643,872	-0.101%	-1,231	-1,163	473	1,636	-68	996	1,064
4. 2. 1	1,216,386	573,399	642,987	-0.132%	-1,602	-1,367	530	1,897	-235	898	1,133
4. 3. 1	1,214,864	572,686	642,178	-0.125%	-1,522	-1,148	473	1,621	-374	839	1,213
4. 4. 1	1,209,012	569,766	639,246	-0.482%	-5,852	-1,252	525	1,777	-4,600	3,346	7,946
4. 5. 1	1,208,675	569,850	638,825	-0.028%	-337	-1,047	470	1,517	710	3,229	2,519
4. 6. 1	1,207,975	569,445	638,530	-0.058%	-700	-1,133	532	1,665	433	1,662	1,229
4. 7. 1	1,207,126	569,009	638,117	-0.070%	-849	-946	476	1,422	97	1,374	1,277

6月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	平24. 6	25. 6	26. 6	27. 6	28. 6	29. 6	30. 6	令元. 6	2. 6	3. 6	4. 6
自然 動態	出生者数	692	683	711	750	689	643	611	631	546	476
	死亡者数	1,271	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317	1,314	1,421	1,446	1,422
	自然増減数	-579	-546	-572	-607	-641	-674	-703	-790	-900	-946
社会 動態	県外からの 転入者数	1,270	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109	1,091	1,027	1,374
	県外への 転出者数	1,236	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329	1,273	1,363	1,141	1,277
	社会増減数	34	-55	-194	-114	-162	-136	-164	-272	-114	97
増減数計		-545	-601	-766	-721	-803	-810	-901	-975	-904	-849

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

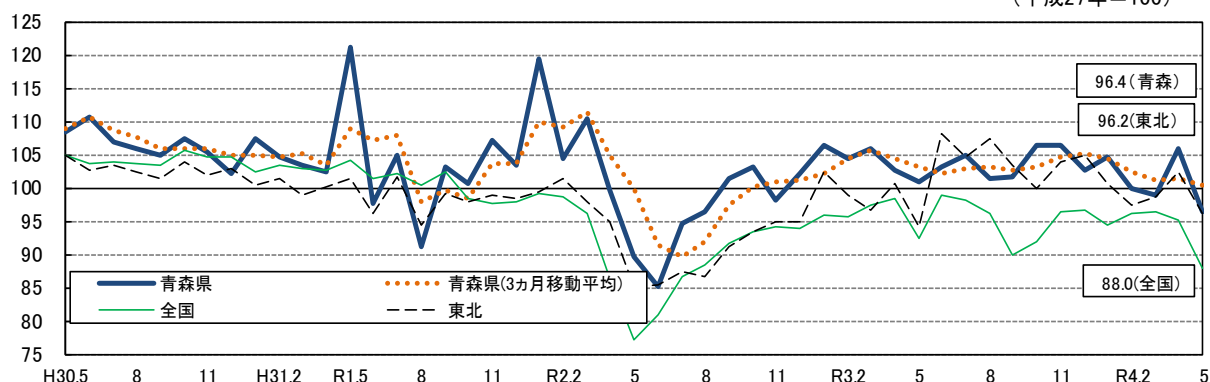
(2-1) 生産動向

令和4年5月の青森県鉱工業生産指数（平成27年＝100）は、季節調整済指数が96.4で、前月比8.9%の低下となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は95.5で、前年同月比4.5%の低下となり、2ヵ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、業務用機械工業、生産用機械工業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、電気機械工業等が低下し、鉱工業全体では8.9%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成27年＝100）



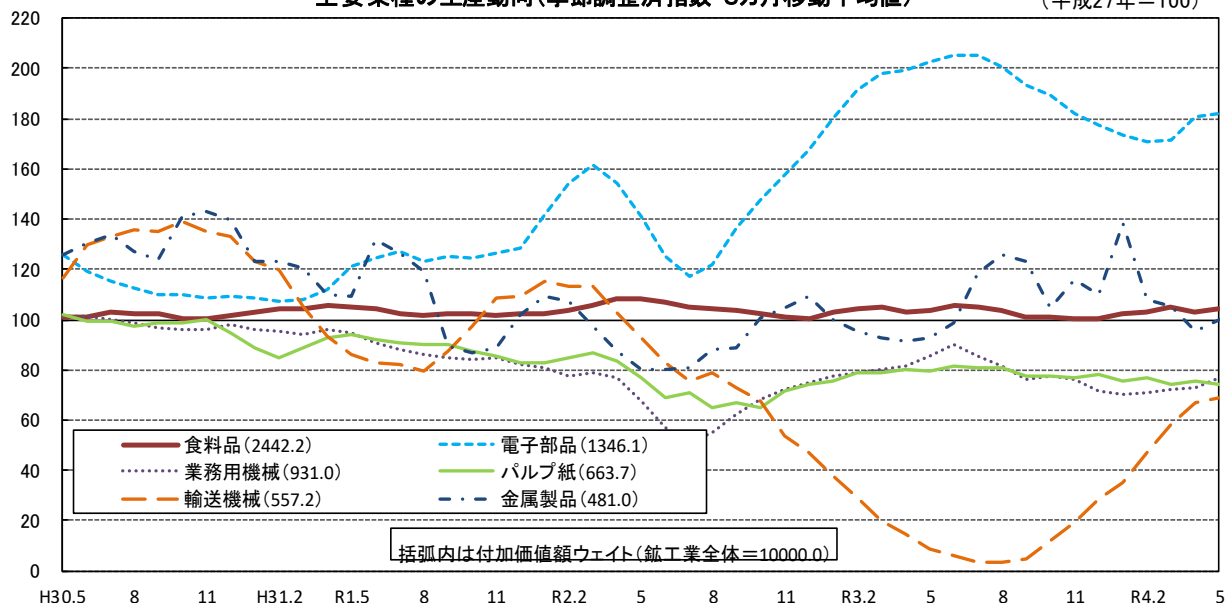
◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -8.9%

プ ラ ス			マイ ナ ス		
業 種	前月比(%)	寄与率(%)	業 種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	4.2	13.3	電子部品・デバイス工業	-12.2	-41.9
業務用機械工業	10.0	9.0	金属製品工業	-41.3	-34.9
生産用機械工業	43.3	7.7	電気機械工業	-26.9	-26.5
パルプ・紙・紙加工品工業	2.3	1.5	家具工業	-52.8	-8.1
窯業・土石製品工業	2.1	0.9	化学工業	-10.2	-6.0

※寄与率とは、総合指数の上昇（低下）に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウェイトとの総合的な大きさで決まる。

主要業種の生産動向（季節調整済指数・3ヵ月移動平均値）

（平成27年＝100）



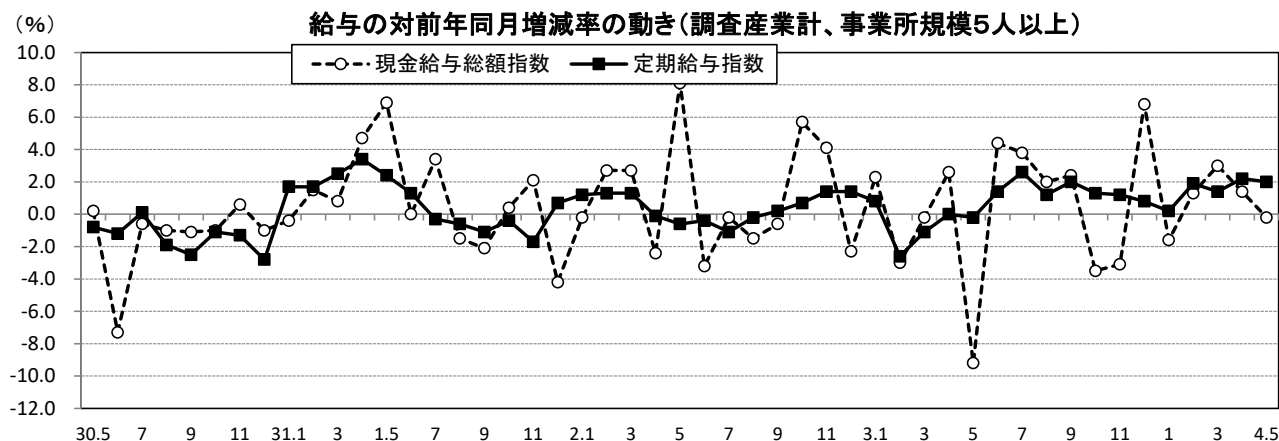
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和4年5月の定期給与は224,452円で、定期給与指数（令和2年＝100）では100.9となり、前年同月比2.0%増と12カ月連続の増（現金給与総額235,360円、現金給与総額指数90.0、前年同月比0.2%減）となった。

総実労働時間は140.1時間で、総実労働時間指数は95.1となり、前年同月比0.7%減と5カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は8.5時間で、所定外労働時間指数は90.4となり、前年同月比3.3%増と2カ月ぶりの増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

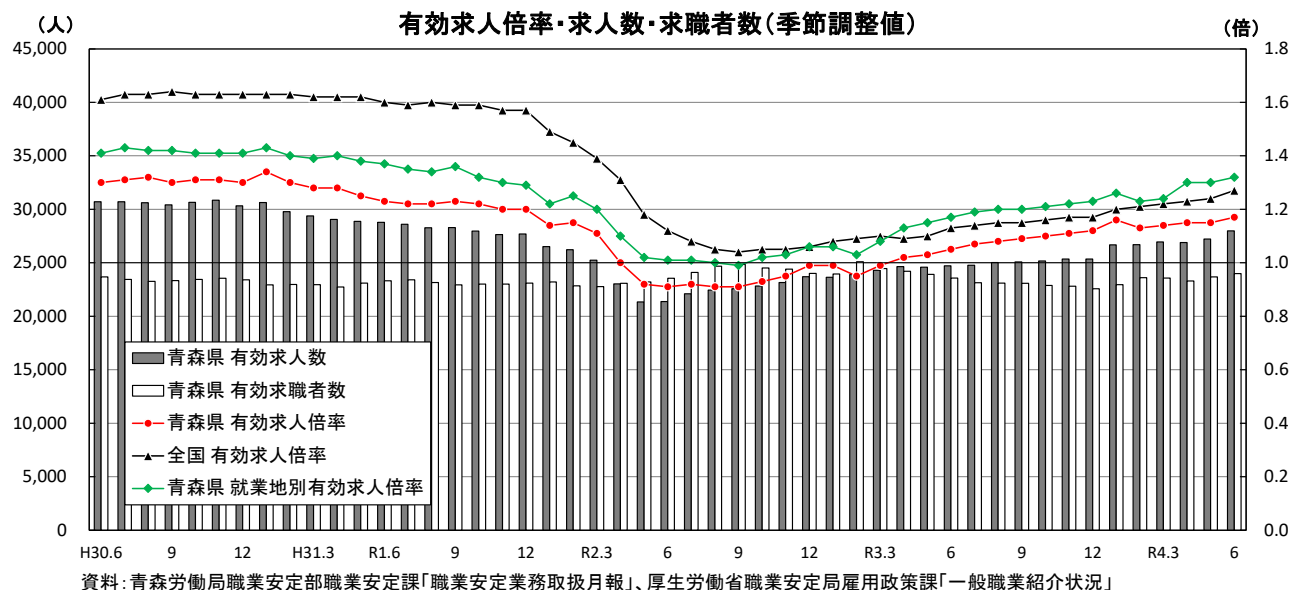
給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(R2=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	235,360 円	277,016 円	90.0	87.0	-0.2 %	1.0 %
定期給与	224,452 円	266,314 円	100.9	101.5	2.0 %	1.5 %
特別給与	10,908 円	10,702 円	—	—	—	-7.0 %
総実労働時間	140.1 時間	131.1 時間	95.1	97.0	-0.7 %	0.8 %
所定内労働時間	131.6 時間	121.4 時間	95.4	96.4	-1.0 %	0.5 %
所定外労働時間	8.5 時間	9.7 時間	90.4	105.4	3.3 %	5.2 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 令和4年1月分から各指数は基準更新により令和2年平均が100となるよう改訂している。

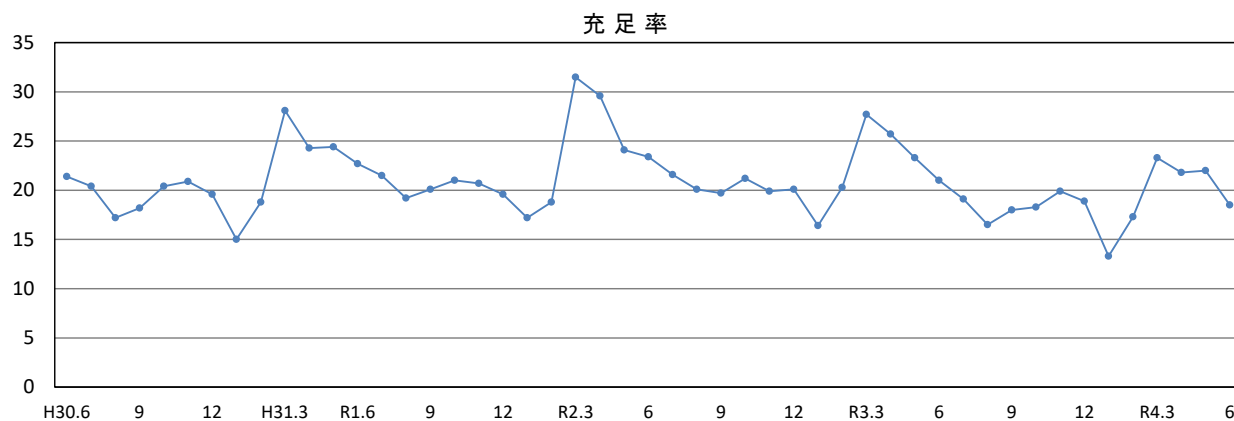
(2-2-2) 有効求人倍率

令和4年6月の有効求人倍率（季節調整値）は1.17倍となり、15カ月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.32倍となった。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和4年6月の充足率は18.5%で、前年同月を2.5ポイント下回った。



(2-3) 物価

令和4年6月の青森市消費者物価指数(令和2年=100)は、総合指数が103.3となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ3.5%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.0となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は100.5となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ1.5%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、住居、食料などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ3.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、食料などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

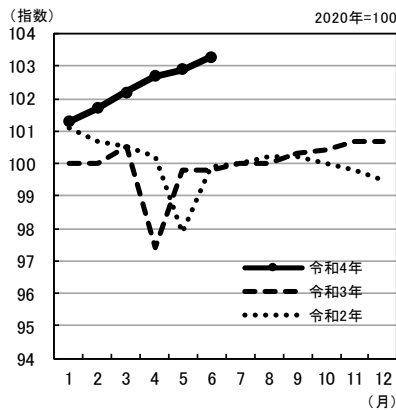


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

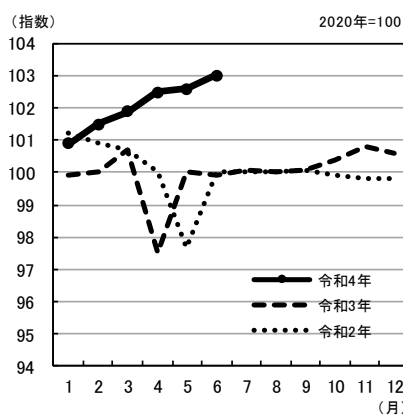
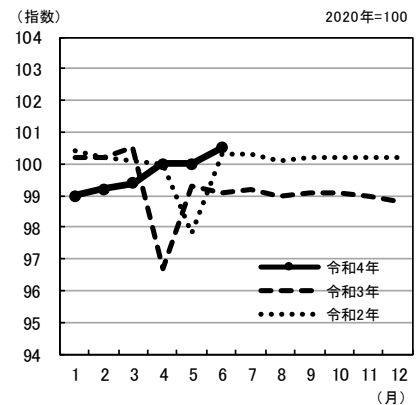


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(2020年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家・家具・被服	被服	保健医療	交通・通信	教育	教養・娯楽	諸費
当月指数	103.3	103.0	100.5	99.1	105.1	108.8	102.4	121.0	104.7	99.4	97.5	92.0	99.3	102.4	102.2
前月比(%)	0.4	0.4	0.5	0.3	0.7	▲1.0	1.3	0.1	▲0.9	▲1.1	0.2	▲0.2	0.0	▲0.4	▲0.2
寄与度	—	0.41	0.41	0.17	0.20	▲0.05	0.28	0.02	▲0.04	▲0.03	0.01	▲0.02	0.00	▲0.03	▲0.01
前年同月比(%)	3.5	3.1	1.5	0.3	5.4	10.8	1.5	15.0	3.7	1.0	▲1.5	▲1.4	0.2	0.9	1.3
寄与度	—	3.00	1.23	0.21	1.51	0.50	0.32	1.57	0.15	0.03	▲0.07	▲0.18	0.00	0.07	0.08

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

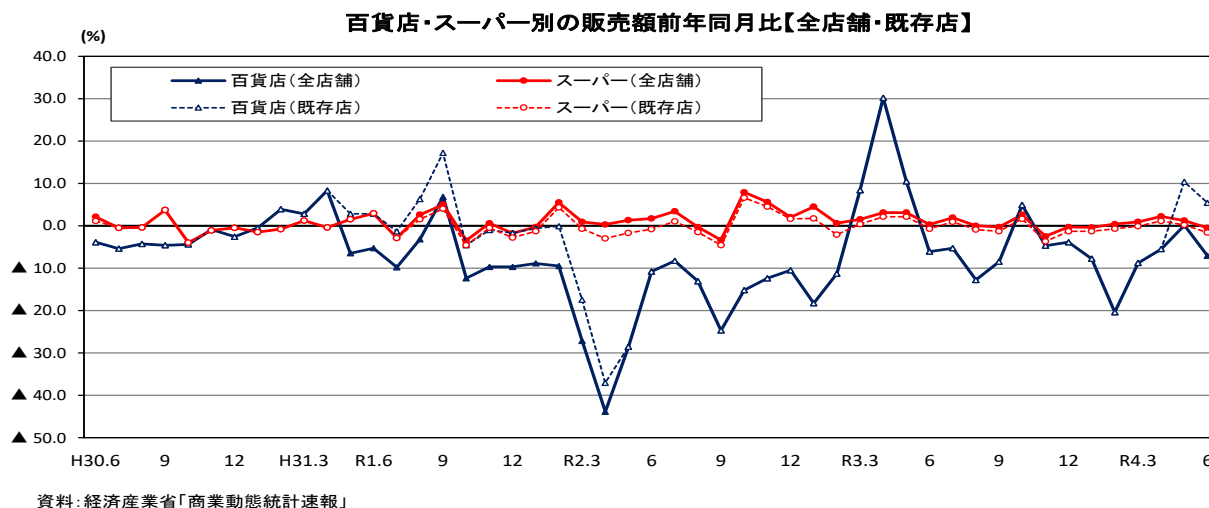
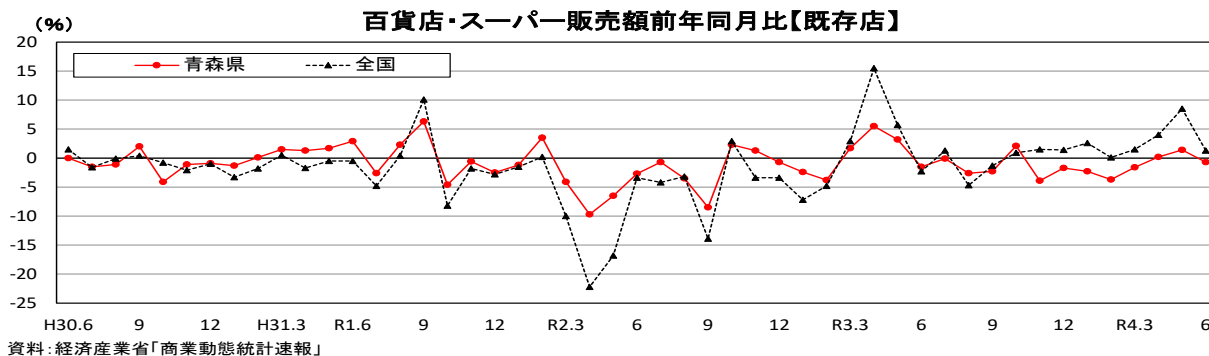
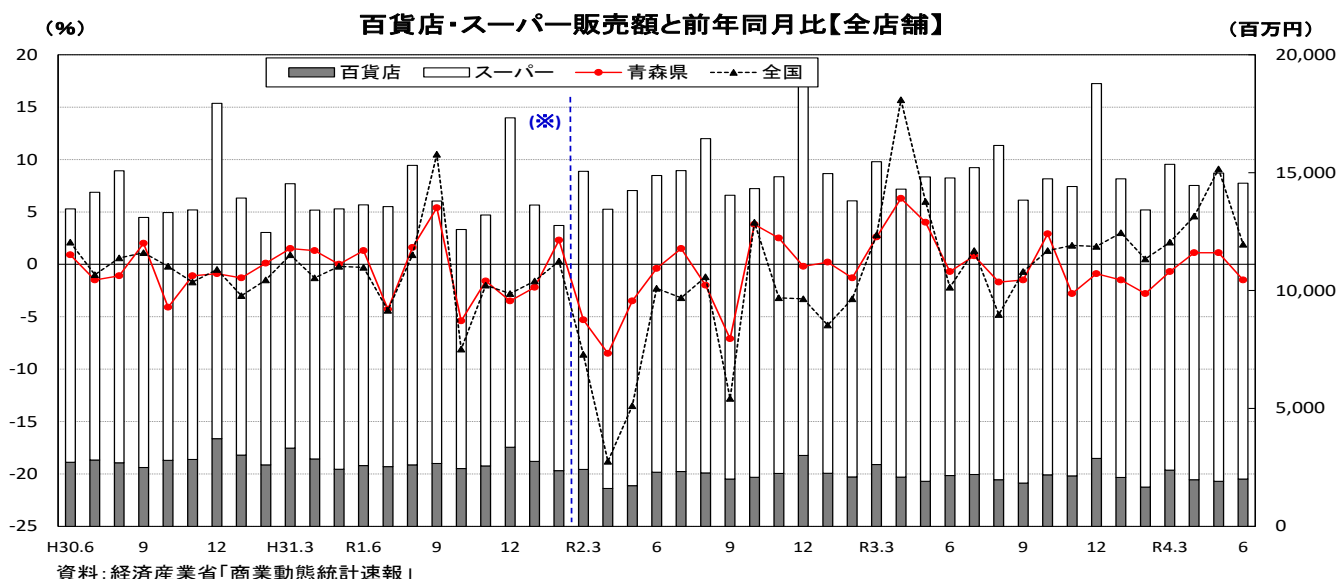
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

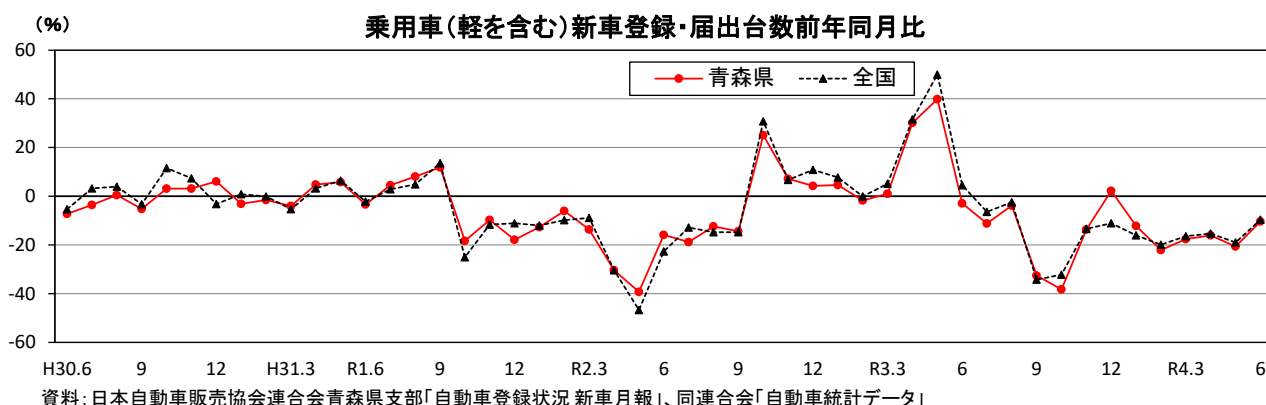
(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和4年6月の百貨店・スーパー販売額は、146億円で全店舗ベースが前年同月比1.5%減(令和元年同月比2.6%減)となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比0.7%減となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。



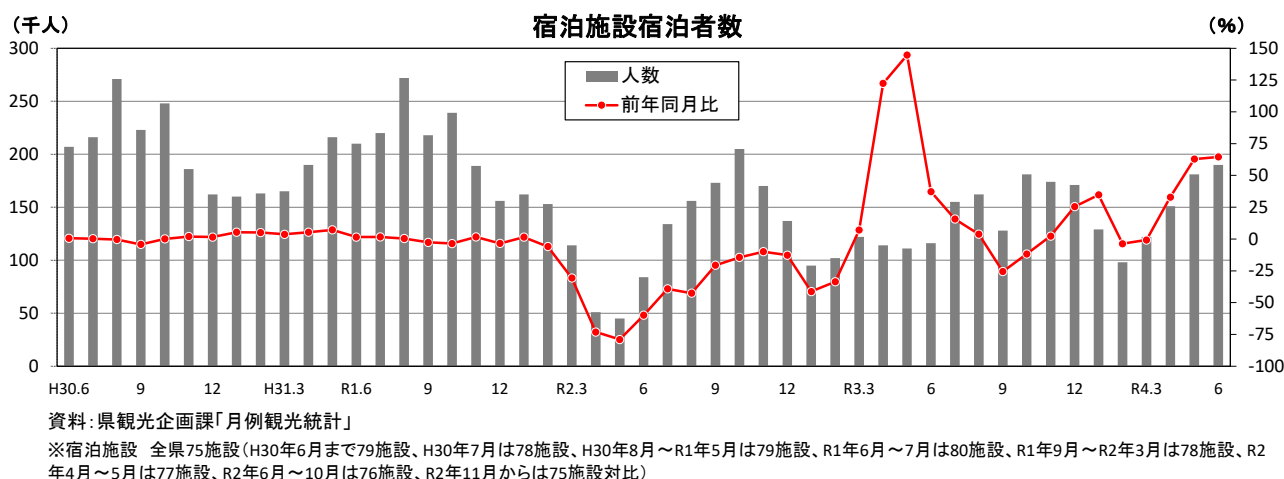
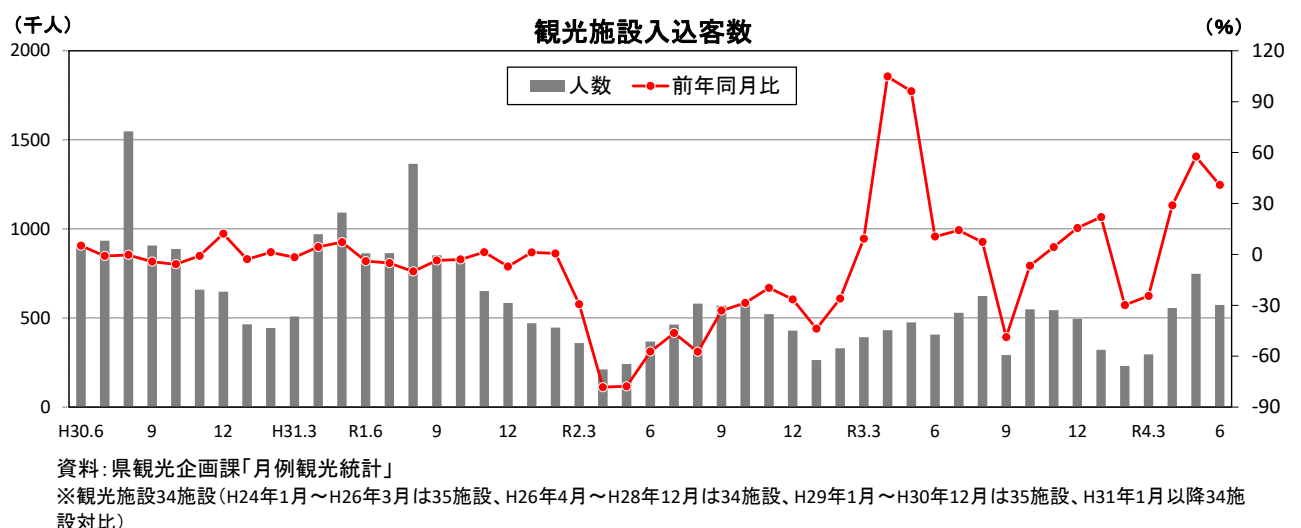
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和4年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,787台で、普通乗用車及び小型乗用車が減少したことにより、前年同月比10.4%減(令和元年同月比26.8%減)となり、6カ月連続で前年同月を下回った。



(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

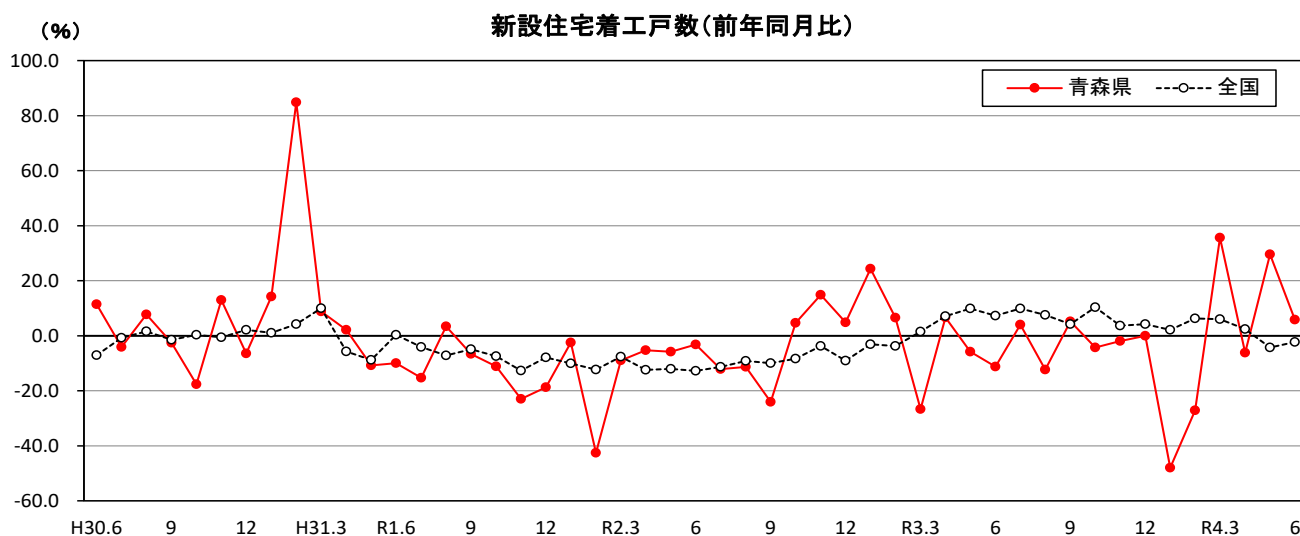
令和4年6月の主な観光施設の観光入込客数は、57万3千人で前年同月比40.9%増(令和元年同月比33.5%減)となった。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、19万人で前年同月比64.6%増(令和元年同月比9.3%減)となった。いずれも3カ月連続で前年同月を上回っているものの、令和元年同月を下回っている。



(2-5) 建設

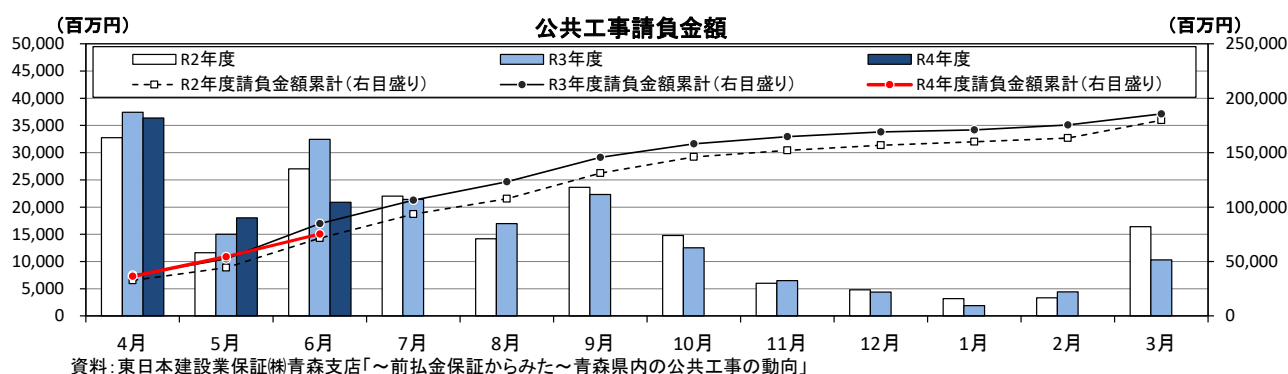
(2-5-1) 住宅建設

令和4年6月の新設住宅着工戸数は542戸で、前年同月比5.9%増となった。主に貸家が増加したことによる。



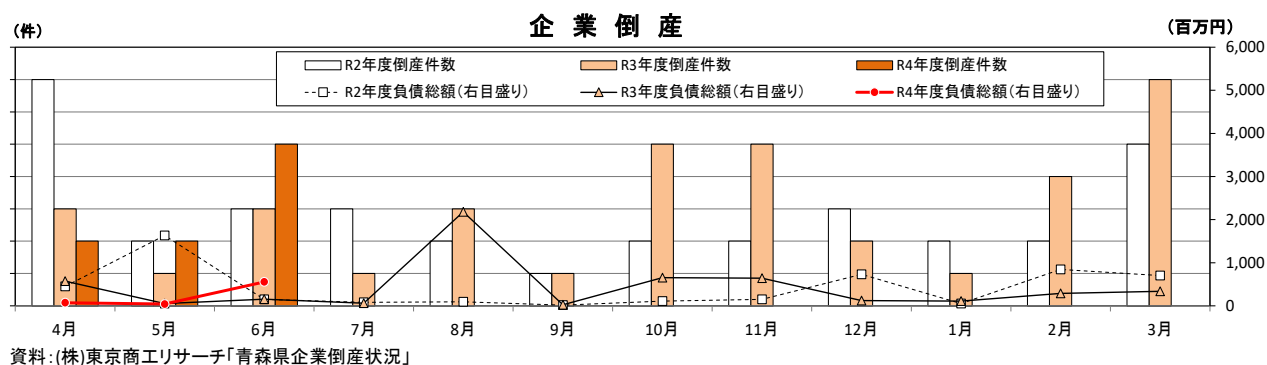
(2-5-2) 公共事業

令和4年6月の公共工事請負金額は208億7,400万円で前年同月比35.7%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。



(2-6) 企業倒産

令和4年6月の企業倒産は、件数は5件で前年同月比66.7%増となった。負債総額は5億5,400万円で前年同月比264.5%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

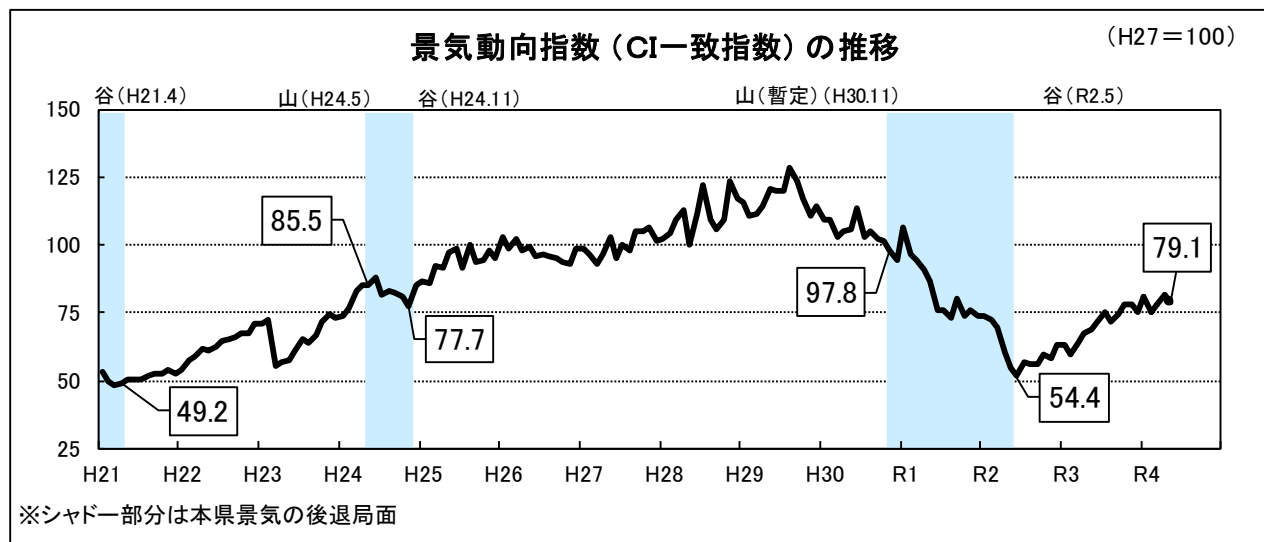
令和4年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 118.2、一致指数 79.1、遅行指数 95.6 となった。

先行指数は、前月を 7.6 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 2.5 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 4.1 ポイント下回り、3 カ月連続で下降した。

5 月の一致指数は、生産、雇用、物流関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別米価の動き（各指標は季節調整等を行い、前年度を前月と比較して示す）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新設住宅着工床面積	1.87	2カ月ぶり	日経商品指数（42種）	-3.25	2カ月連続
建築着工床面積	1.09	4カ月ぶり	新規求人倍率（全数）	-2.31	2カ月連続
			生産財生産指数	-1.91	3カ月ぶり
			中小企業景況DI	-1.78	2カ月ぶり
			乗用車新車登録届出数	-1.14	3カ月ぶり
			企業倒産件数（逆サイクル）	-0.12	3カ月連続
一致系列					
所定外労働時間指数（全産業）	0.98	2カ月ぶり	鉱工業生産指数	-2.14	2カ月ぶり
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.38	3カ月連続	投資財生産指数	-1.68	2カ月ぶり
			有効求人倍率（全数）	-0.08	3カ月ぶり
			輸入通関実績（八戸港）	-0.03	2カ月連続
遅行系列					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.71	2カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-3.84	2カ月ぶり
りんご消費地市場価格	1.70	2カ月ぶり	有効求職者数（全数）（逆サイクル）	-2.30	4カ月ぶり
公共工事請負金額	1.27	2カ月連続	県内金融機関貸出残高	-1.32	4カ月連続
			常用雇用指数（全産業）	-1.22	3カ月連続
（参考）青森県景気動向指数（DI）					
先行指数	37.5%	（2カ月連続で50%を下回った）			
一致指数	66.7%	（4カ月ぶりに50%を上回った）			
遅行指数	28.6%	（4カ月連続で50%を下回った）			

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和4年7月期）

現状判断DIは、会合・イベント等の再開や5月の大型連休における県内外の人流の増加、消費活動の回復といった声があり、前期比12.5ポイント上昇の51.0となった。

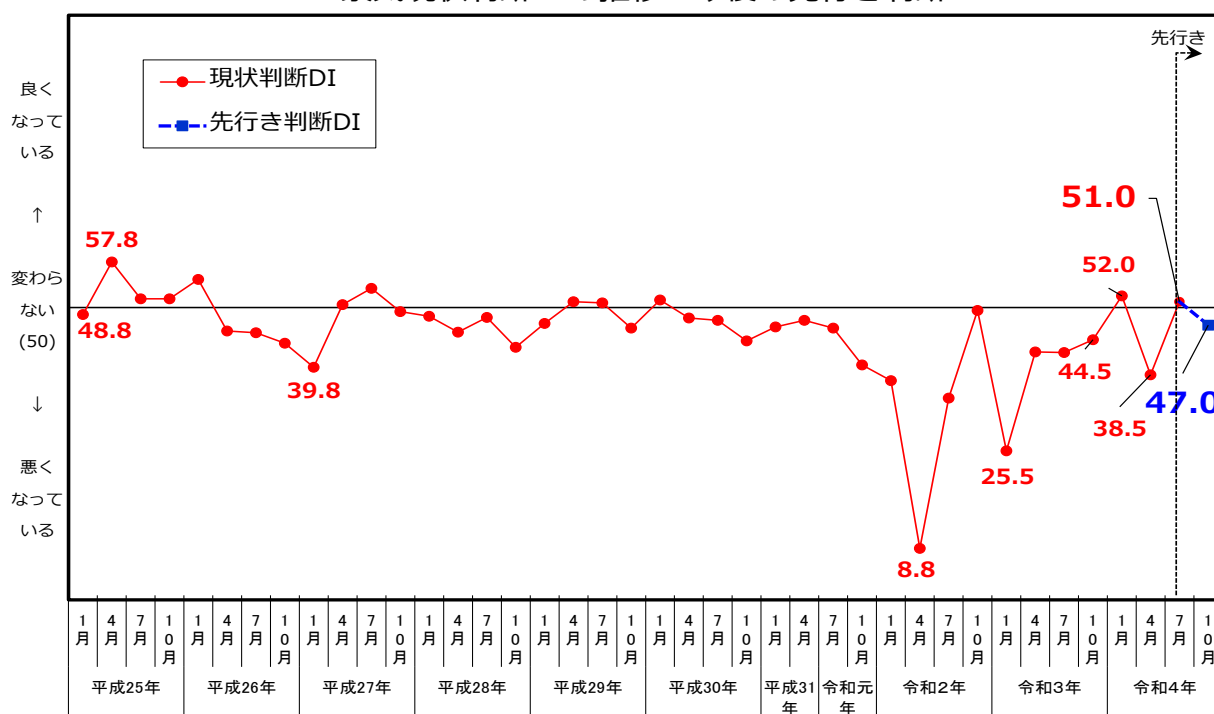
先行き判断DIは、新型コロナウイルスの感染再拡大を危惧する声のほか、ウクライナ情勢の長期化や円安の影響を懸念する声があり、現状判断DIと比較して4.0ポイント低下の47.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を下回った。

（調査期間 令和4年7月1日～7月21日 回答率 100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が2.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が21.7ポイント上昇、「変わらない」が9.8ポイント低下、「やや悪くなっている」が3.5ポイント低下、「悪くなっている」が10.4ポイント低下となった。全体では51.0となり、前期から12.5ポイント上昇し、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに上回った。</p> <p>判断理由では、会合・イベント等の再開や5月の大型連休における県内外の人流の増加、消費活動の回復といった声がある一方で、ウクライナ情勢の長期化や円安の影響による原油高や原材料、食料品、光熱費等の価格高騰が家計を圧迫し、購買意欲が低下しているといった声や、給与が物価高に追いついていないといった声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、全地区で上昇し、景気の横ばいを示す50を上回った。</p>

● 3カ月後の景気の先行き判断

動向	<p>今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が1.0ポイント上昇、「やや良くなる」が9.0ポイント低下、「変わらない」が同水準、「やや悪くなる」が7.0ポイント上昇、「悪くなる」が1.0ポイント上昇となった。全体では47.0となり、今期調査の現状判断DIと比べて4.0ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由では、青森ねぶた祭をはじめとしたイベント等の開催に期待する声がある一方で、新型コロナウイルスの感染再拡大を危惧する声のほか、感染再拡大による給与の減少や資金繰りに対する不安、ウクライナ情勢の長期化や円安による原油高や原材料、食料品、光熱費等の価格高騰が消費活動を停滞させることへの懸念の声が多くみられた。</p> <p>今期調査の現状判断DIと比べて、全地区で低下し、津軽、県南で景気の横ばいを示す50を下回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	観光やビジネスでの県外客が5月の連休を境にどんどん増えている。新幹線も満席に近い状態が復活しつつあり、駅も混雑がみられる。暑さが早かったので夏物の動きも活発で早く、プレミアム券の後押しもあって消費マインドは好調に感じる。(商店街=東青)
○	コロナ騒動前と比べると全く良くないですが、昨対比を見ると上向き傾向です。当市はプレミアム商品券等で消費を刺激していますし、夕刻の商店街の人通りも増えていきますし、来店者の顔色も良いです。嬉しい。(衣料専門店=東青)
○	旅行に行かれる方が増えている。(旅行代理店=津軽)
○	県外からのお客様がふえている。(レストラン=県南)
○	食品・消耗品等、生活に関わる物の値上げで苦しい所もありますが、学校・社会の活動が活発になり、イベントや人の流れも戻ってきていて活気があり、自由になるお金をやりくりして楽しんでいるように思えるから。(タクシー=下北)
○	会合の懇親会なども徐々に開催されるようになり、ホテル、飲食店なども積極的に営業活動も再開、徐々に夜の町にも人が出始めた。(飲料品製造=県南)
□	燃料・食品等の販売価格が値上げに転じており、消費者が買い控えている状況である。(ガソリンスタンド=津軽)
□	一時期は良くなるのかなと言う期待を持ったけれども、全く期待外れ。県南地区はコロナ患者が減らない。あつという間にコロナ患者が増えだしてどこにも行けない。繁華街は淋しくなった。人影がまばらになった。(タクシー=県南)
□	物価高に対しての給与が変わっていないため、家計を圧迫しているのがみえてくる。お付き合いのある企業様も飲食店等は多少賑わっているように見えるが、その実、コロナ対策補助金が無くなってしまったからこそ苦しくなっている面もある。困っているよりかわらない、むしろ悪くなっていると感じている。(広告・デザイン=津軽)
□	新型コロナウイルス感染の収束がいまだ確かなものになっていないので経済の回復に勢いがつかない。また燃料高騰による負担増、各種商品の値上げ実施や値上げ予告が相次ぎ、消費行動を抑える方向に進んでいる。(新聞社求人広告=東青)
△	食品、ガソリン、電気料の値上げ、高騰もあり、食費に使えるお金が減っている。お客様の買い上げ点数が落ち込んでいる。(百貨店・スーパー=東青)
△	コロナ禍の影響が緩和され、行動制限が一部解除されて来ているが、海外情勢の不安定が継続されており、その影響がガソリン高にはじまり、食品・生活用品にまで顕著に表れてきて、消費者の購買意欲が低下している。(乗用車販売=県南)
△	鉄・ステンレス・銅など素材価格の高値、欧米の利上げによる工場投資の縮小見通し。(電気機械製造=県南)
×	コロナも落ち着いて行動制限も緩和されたことで少し回復の兆しが見えていたが、円安の影響で生活用品、食料品、ガソリンなど生活の必需品がすべて値上がり。様々な費用を削っても生活できないレベルまで達してきた。(建設=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	祭り、お盆、夏休み。コロナの脅威が薄れつつある今、「3年ぶりの○○」が景気を押し上げる。(一般小売店=東青)
○	青森ねぶたが予定通り開催される心理的効果は大きく、夏休み時期の予約も比較的順調に増えている。あとは、団体客と外国人客が戻れば例年並みと言えるのだが、そこはこれからに期待。青森県の積極的かつ迅速な施策実施をお願いしたい。他県に比べ出遅れ感をいつも感じる。(観光型ホテル・旅館=東青)
○	ねぶた、各商店街のイベントもあるから。(商店街=津軽)
○	7月末～8月中旬の各地の祭り、お盆にかけて相当数の観光客、帰省客が見込まれる。(食料品製造=下北)
○	感染対策を十分にし、イベントや売り出しを出来る雰囲気になってきているため。(新聞社求人広告=県南)
□	コロナ発生がまた増加傾向で、国や県の対応が大きく影響する。7月前半の状況次第。(観光名所等=津軽)
□	やはり、コロナが減少しない。多すぎる状態が続いているため危機感が払しょく出来ない様子。円安もドンドン加速し物価上昇。虫の事が読みづらい。油断はできないのではないかな。(一般飲食店=県南)
□	長いコロナでの影響で耐え忍んできたが、資金繰りが大変で、今後、やっていけるか…?不安が多い。(広告・デザイン=県南)
□	感染再拡大の心配がまだ消えないこと、燃料高騰がまだ続く可能性があること、各種値上げがまだ続く可能性があること。(新聞社求人広告=東青)
△	食品、電気料値上げの影響により、必要以上の買い物はしない傾向がさらに高まると考えています。(百貨店・スーパー=東青)
△	新型コロナで建築計画を延期していた状況でようやく落ち着いてきたところに戦争がはじまり建築資材が記録的な値上がりです。ここ数か月は受注が多かったものの値上がりの状況によってはまた計画を見直すということになる気がします。(設計事務所=津軽)
△	物価上昇に給与が追いついていないため、今後は厳しいと思われます。(住宅建設販売=県南)
△	私たちが生活する上で必要不可欠な、電気料金、水道料金、ガス料金等の水道光熱費、そして食料品の高騰はまだまだ続くと思われる。一方収入は新型コロナの更なる増加で、増えるどころか更に減少もありダブルパンチ。このような状況で政府の対策を期待したいところだが、今のところこれといった対策はない。(人材派遣=津軽)
×	20年ぶりの超円安が続き、物価上昇を余儀なくされており、コロナウイルス感染も第7波が危惧され、ロシアのウクライナ侵攻を背景にしたエネルギー高騰は収束の見えない状況が続いている。今後の景気を良くする材料は、青森県にとってかなり少ないと考えられる。(経営コンサルタント=東青)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」